

「多くの人の笑顔のために」

- 重症心身障がい、難病、長寿医療を柱とし、地域に密着した専門医療を提供します。
- 社会的なアプローチを組み入れ、患者中心の心あたたまる医療を実施します。
- 臨床研究、教育研修、安全管理をとおして、常により質の高い医療を追求します。
- 公益性を確保し、効率的で自立した病院経営を推進します。



令和5年度 新採用者オリエンテーション

風薫る季節

心地よい季節がまた訪れました。「風薫る」とはいったい「何が」薫るのでしょうか？もともとは漢語で「薫風(くんふう)」という言葉が、やまと言葉に置き換えられたものと言われています。もともと「薫風」は花の香りを運ぶ春の風を指すことが多かったようです。現在は初夏の風をあらわすように変化したことから「若葉の香り」とも言えます。私達の世界はコロナ禍を経て、未知の感染症から5類感染症へと変わりました。巷では、制限が緩和しマスク着用も個人の判断とされ、「薫風の季節」を楽しまれている人が増えているのではないのでしょうか。様々なところで人の流れが活発になっています。このように少しずつコロナ前のような日常に近づくことは素敵なことです。皆さまが穏やかな日々を過ごせる事を一医療人として願うばかりです。

今年度、あわら病院看護部は8名の新人看護師を迎えることが出来ました。このように変わりゆく生活の中で公私ともに充実した社会人生活を送り、医療人として成長してくれればと思っています。今後とも皆さまにご支援頂きますよう宜しくお願いいたします。



看護部長
田中 孝浩

人生の最期を支える

5階病棟 看護師 出口 佳奈

5階病棟は、血液、腫瘍内科と老年内科を併設しており、各科に関連した看取りの方もいらっしゃいます。どのような人生の最期を迎えるかにあたって、本人及び家族それぞれが、それぞれの思いを抱かれています。治療を続けて少しでも長く生きることを望む方、辛い治療よりも残りわずかな時間を自然なまま自分の思うよう穏やかに過ごすことを選ぶ方。過ごす場所も、家族のいる住み慣れた家だったり、病院という医療の行き届くところだったり、様々です。きっとどれも正しい選択であり、だからこそ私達看護師は、何が正

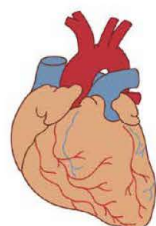
しいのか、何ができるのかと悩みながらも、それぞれの思いに応えるべく多職種でカンファレンスを実施し、関わっていく必要があるのだと思います。苦痛を100%取り除くのは難しいかもしれませんが、ほんの1%でも穏やかに過ごしていただけるよう、日々精進しながら関わっていきたいと思っています。



高齢者心不全

院長・循環器科 見附 保彦

高血圧や心不全といった循環器疾患は、日本の高齢化に伴い有病率が増加し、その対策が喫緊の課題です。本邦では2019年に循環器病対策基本法が施行され、2020年には厚労省から循環器病対策推進基本計画が発表され



ています。「心不全」は、それら循環器病対策基本法でもその対象疾病として重要であることは紛れもない事実かと思えます。このコロナ禍の中においても最近の心不全医療の進歩は目覚ましく、心不全の治療薬の新たなエビデン

スが相次いで発表され、特に今までエビデンスの乏しかったHFpEFに対するエビデンスも追加され、国内外のガイドラインのアップデートが行われ現場の医療に浸透してきています。しかしながら最先端の技術もさることながら、高齢者の占める割合の多い心不全医療には治療を求めるとは別に、疾病の終末期としての幸福の追及を第一義とするような治療・ケアの必要性も求められてます。あわら病院は、多職種カンファレンスでのICFを用いた患者評価に努めています。

神経難病の患者さんへの看護

4階病棟副看護師長 佐々木 薫

「神経難病」ははっきりとした原因や治療方法がまだわかっていない病気の総称で、300以上の疾患があります。薬物療法やリハビリなどを行っても病状が進行し、身体を自分で動かせなくなったり、言葉を発せられなくなります。また、人工呼吸器を使用する方もいます。疾病により障害を抱えて入院されている患者さんは、生きるために様々な選択をしてきています。あわら病院では病状の進行により、在宅療養が難しくなった方の短期入所・長期療養の受け入れを行っています。患者さんが今まで生きてこられた過程を大事にして、患者さんの価値観を尊重し、その人らしく過ごせるように寄り添うことを心がけています。

まずは、個々の残存機能を活かして、その人にあったコミュニケーションの方法を考えます。そして、パソコンやタブレット、透明な文字盤などを駆使して患者さんの訴えや思いを聞き取っていきます。意思伝達が難しいからこそ観察する力、言葉にならない思いをくみ取る力、各専門職によるチームの力を合わせていくことが大切です。

活動や食事、日常生活が思うようにできず、もどかしい入院生活だと思えますが、長期療養の中でも楽しみに感じる面会や季節の行事などを充実させ関わっていきたくと思っています。



地域医療連携施設のご紹介

あわら病院と連携している医療機関等をご紹介します

往診クリニックふくい



往診クリニックふくい

〒918-8023 福井県福井市西谷2丁目2704番地
 エスバンドル103
 TEL (0776) 36-1811
 ホームページ <http://ousin-fukui.com>

12年前に、主に訪問診療をおこなう診療所としてスタートしました。訪問看護師、リハビリ、ケアマネなどの方々にご協力をいただきながら、在宅療養されている患者さんの診察をしています。患者さんの家へ伺うので、療養環境やご家族の生活にも触れることができ、介護の大変さもよくわかります。独居の患者さんも多く、ケアマネさんやヘルパーさんが生活を支えていて、感動を受けることが度々です。

スタッフは、看護師1名、事務1名、そして、神経難病や脳血管疾患などで嚥下障害に悩む患者さんが多いため、言語聴覚士が1名常勤しています。一般の診療所とは異なって朝から夕方まで訪問診療を行っており、急な状態変化には時間を調整して往診に行きやすく、小回りがききます。また緊急時には、最初に訪問看護ステーションが対応してくださり、状況の報告から指示だけで済むことも多く、医師一人ですが困ることは殆どありません。

神経難病や人工呼吸器装着などで吸痰が必要な患者さんでは、ご家族

が昼夜対応されています。あわら病院にはレスパイト入院を受けていただき、ご家族は大変助かっています。入院中に患者さんの問題点や対応策をご指摘していただくこともあります。これからも在宅医療のご支援をお願いします。



訪問看護ステーションに配属になりました

訪問看護ステーションアイリス 管理者 高橋 良美

令和5年4月より、訪問看護ステーションアイリス管理者に配属になりました高橋です。

4月中旬頃から看護師と共に患者さん宅へ訪問させていただいております。前の訪問から体調の変化はないか、困り事はないか、内服薬は服用できているか等患者さんのペースに合わせて看させていただきます。患者さん1人1人疾患や生活環境は異なりますが、皆さん同じなのだなあと感じた事があります。それは、訪問看護師が来るのを待っていてくださるという事です。最近あった出来事や家族の話、次回の受診予定の確認、いろいろな話をしてくださり、あっという間に予定の時間がきてしまいます。

訪問看護ステーションアイリスは看護師4名で患者さん宅へ訪問させていただいておりますが、訪問した看護師以外の看護師とも情報共有しています。それは、看護師全員で患者さんをサポートできるようにするためですが、看護師同士のみでなく、かかりつけ医ともカナミックでその日のうちに情報共有しています。今後も患者さんの在宅療養生活を支えられるよう活動していきたいと思っております。



外来担当医表

(令和5年6月1日現在)

診療科		月	火	水	木	金
総合	内科	見附 保彦	見附 保彦	大槻 希美	鈴木 友輔 ^(第1・2・3・5) 見附 保彦 ^(第4)	野村 量平 ^(第1・3・5) 辻 俊比古 ^(第2・4)
	小児科	川満 徹*	川満 徹*	川満 徹*	湯浅 光織 ^{(第1・3・5)*} 福岡 諒 ^{(第2・4)*}	川満 徹*
専門	リウマチ		津谷 寛		津谷 寛	
	血液・腫瘍			浦崎 芳正*		大槻 希美 ^(第2・4)
	生活習慣病			鈴木 友輔 ^(第2・4)		伊藤 和広
	老年					栗田 敦 ^(第1・3・5)
	神経			佐々木宏仁 ^(第1・3・5)		
	循環器			見附 保彦	見附 保彦	
	外科	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢
	整形外科	伊與部 貴大				
	眼科				吉岡 達也*	
	皮膚科		若原 真美*			
	地域ケア	鈴木 友輔*				
禁煙外来	見附 保彦					

● 受付時間(午前診療)8:40~11:30 ● 黄色枠は予約制 ● *印は午後診察 ● 休日/土・日・祝日・年末年始

※皮膚科の診察は、火曜日の13:00~15:00(受付時間14:30まで)です。

※神経内科の診察は、第1・3・5水曜日(受付時間8:40~11:30)です。

※最新の医療体制についてはあわら病院ブログ「診療体制の最新情報」をご覧ください。



座位保持装置について

理学療法士 仲村 大地

車いすと聞いてどういったものが思い浮かぶでしょうか。

病院などで目にする普通型、スポーツで使用されるもの。様々な種類の車いすがある中で今回は「座位保持装置」についてお話しします。

座位保持装置は怪我や病気のために自力で座位を保つことが困難な患者さんに対して適切な座位姿勢が保てるよう特殊なシートやクッション、パッド、ベルトなどを用いて身体を支える装置です。

安定して安楽な座位姿勢をとれることで、食事や学習、外出などの活動の幅が広がり、QOLの向上など様々な可能性が期待できます。

リハビリテーション科ではご家族さん、病棟スタッフと連携してひとりひとりの運動機能や生活環境を考慮して車いすの作製に携わっています。

「多くの人の笑顔のために」日々の生活をより良くすべく日々研鑽していきます。



療育指導室便り

療育指導室 保育士 宮川 朋和

「イースター」というイベントを皆さんは知っていますか?イースターとは日本語で「復活祭」という意味で、キリスト教ではクリスマスと同じくらい盛大にお祝いをする行事です。在宅支援事業所あおばではイースター週間をつくり、イースターのシンボルで使われる「イースターエッグ」作りにチャレンジしました。

ゆで卵に食紅で作った色水で色を付けたり、クレヨンやシールで模様を描いたりして、オリジナルのイースターエッグを作りました。色水を混ぜて新しい色を作るのに夢中になったり、かわい模样を一生懸命描いたりし、個性あふれる色とりどりのイースターエッグが出来上がりました。利用者さんだけでなく、ご家族にもとても喜ばれ、家庭でも楽しんでもらえたようです。これからも新しい行事や取り組みを通して利用者さんと一緒に笑顔で楽しく活動していきたいです。



独立行政法人
国立病院機構 あわら病院

福井県あわら市北湯238-1
TEL.0776-79-1211(代表) FAX.0776-79-1249
(地域医療連携室) FAX.0776-79-1261
URL <http://www.awara-hosp.jp/>

交通のご案内

えちぜん鉄道「あわら湯のまち」駅より(約5km) 乗合タクシー [事前に登録が必要です]
JR北陸本線「芦原温泉」駅より(約10km) 乗合タクシー [事前に登録が必要です]

※乗合タクシーを利用するためには事前に登録が必要です。

乗合タクシー(デマンド交通)は、お電話一本で、停留所から目的地の近くの停留所まで直接行けるシステムです。

《お問い合わせ先》あわら市役所 生活環境課 生活グループ 0776-73-8017